

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所属 薬学部

名前 曾川甲子郎

作成日 2024年8月1日

1. 教育の責任

薬学における衛生薬学は、公衆衛生、食品衛生、環境衛生、毒性学など次世代の薬学・薬剤師教育において極めて重要な役割を担う学問分野であるため、学生に対し基礎から応用まで幅広い知識と実践的スキルを提供し、社会貢献することが責務であると考えている。したがって、これまで薬学部の教員として、薬事衛生を司るために必須となる衛生化学およびその実習や総合プレ研究を担当してきた。

担当科目：

「公衆衛生学」(選択・医療薬学科 2 年次)

「衛生化学Ⅰ」(必修・医療薬学科 3 年次)

「衛生化学Ⅱ」(必修・医療薬学科 3 年次)

「衛生化学実習」(必修・医療薬学科 3 年次)

「薬学総合プレ研究」(必修・医療薬学科 3 年次)

教育活動：

「音楽サークルβbanda」顧問

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

医療人としての高い専門性、責任感、そして多様性を育むための薬学教育を実践できるよう努めることを理念としている。

まず、高い専門性を育むために、最新の薬学知識や技術にアクセスできる環境を提供したいと考えている。薬学の分野は急速に進化しており、学生には常に最新情報に触れ、実務経験を積ませる機会を提供することが求められている。また、将来的には他の学部学科との連携を強化し、専門性を高めるための学際的なアプローチを奨励したいと考えている。次に、責任感を育むためには、倫理的な価値観と患者への使命感を醸成する教育が必須である。学生には患者の安全と健康を最優先に考える意識を持たせ、薬物管理や医療倫理に関する教育を強化したいと考えている。また、社会的責任も重要であり、地域社会や国際社会に貢献する意識を育てることも視野に入れている。さらに、多様性を育むためには、異なるバックグラウンドや文化を持つ学生が受け入れられ、尊重される環境を提供したいと考えている。多様な価値観や視点から学び、コミュニケーション能力を高めるプログラムを導入し、学生が世界観を広げ、共感力を養えるよう支援したい。

2) 理念をもつに至った背景

今後の医療は更に高度化・複雑化し、薬剤師を取り巻く環境が大きく変化していくことが予想される。医療の複雑化は科学技術の進歩に伴い、新たな治療法や薬物

が続々と登場し、患者のケアにおける専門知識がますます重要になってくるため、医療人は高度な専門性を持つ必要がある。また、現代の医療環境では、多様な文化的背景や社会的状況を持つ患者に対応する必要があるため、多様性を尊重し、文化的な違いに敏感な医療提供が求められる。以上の背景から、医療人としての高い専門性、責任感、多様性を育む薬学教育は、現代の医療環境に適応し、患者と社会に価値を提供するために不可欠であると考えている。

3. 教育の方法・戦略

概要

基本的な薬学知識や理論を提供する従来の学問ベースの授業を基本とした上で、薬剤師国家試験や薬学共用試験に対応しうる教材を作成し、学生に国家試験や共用試験対策のための重要な情報やテクニックを提供するだけでなく、学問を学ぶことの面白さを提供する。以下5つの戦略により、学生は薬剤師国家試験や薬学共用試験に向けて十分に準備し、同時に薬学の幅広い知識とスキルを継続的に発展させることができると考えている。

戦略

1. 学生の成績解析とアプローチ: これまでの定期試験や模擬試験結果を解析し、学生のニーズとスキルに合わせたカスタマイズされた教育を提供する。これにより、学習者が積極的に参加し、自己成長を促進できると考えている。
2. 実践的な学習: 理論的な知識だけでなく、実務経験を通じて実践的なスキルを磨く機会を提供する。教科書ベースでは、理解しにくい項目は、実際の写真や動画など通じて理解を促す。
3. アクティブラーニングの活用: アクティブラーニングとして、ディスカッション、グループプロジェクトなどを活用し、学習者同士の協力とアイデア交換を促す。
4. テクノロジーの活用: 教育アプリケーションを活用し、薬剤師国家試験対策問題を活用し、学習効果を最大化する。
5. 評価とフィードバック: 学習の進捗を定期的に評価し、学生に適切なフィードバックを提供して成績向上をサポートする。

これらの方法と戦略を組み合わせることで、学習者は高い専門性を持ち、責任感を育み、多様な環境で成功できる医療専門家としての能力を獲得すると考えている。また、教育の質と効果を向上させ、社会への貢献を最大化することを期待している。

4. 学習成果

- ・ 2024 年度 「公衆衛生学」薬学部授業評価アンケートにて以下結果が得られた。
「到達目標を含め、身についたと思うのはどれですか(複数選択可)」に対し、①学問的な知識が 100% ②国家試験・CBT に対する知識が 100%、「資料・板書の内容は適切でしたか」に対し、①ちょうどよかったが 100%、「図は適切でしたか」に対し、①ちょうどよかったが 100%と戦略通りの結果であった。
- ・ 2024 年度 「衛生化学 I」薬学部授業評価アンケートでは以下結果が得られた。
「到達目標を含め、身についたと思うのはどれですか(複数選択可)」に対し、①学問的な知識 100% ②国家試験・CBT に対する知識 92.3%、「資料・板書の内容は適切でしたか」に対し、①ちょうどよかったが 100%、「図は適切でしたか」に対し、①ちょうどよかったが 92.3%とこちらも同様に戦略通りの結果であった。また、自由記述欄には、「授業がわかりやすかった」、「声量がちょうど良かった」等、好意的なコメントが寄せられた。

5. 改善のための努力

前述のように、学問的な知識と国家試験 CBT に対する知識を両立した授業資料を作成できた一方で、2023 年度 「衛生化学 I」薬学部授業評価アンケートでは、「授業スピードが早く、資料への書き込みが追いつかない場面があったので、授業スピードを緩めてほしい」とコメントがあった。それを受けて、新しいトピックや概念を導入する際は、段階的な進行を採用したい。また、特定のトピックスに対しオフィスアワーを利用した個別の追加サポートを行う。

6. 今後の目標

- ・ 短期目標:最新の医療技術や研究成果を統合し、実践的なスキルを強化する。学生には薬剤師としての基本的な知識と倫理観を教え、患者中心のアプローチを強調する。また、薬剤師以外との専門家とも連携し、学外での実務経験を促進し、現場での実践力を向上させたい。
- ・ 長期目標:研究と臨床実践を結びつけ、新薬の開発や薬物治療の最適化に貢献する専門家を育てたい。また、多様性と包摂性を重視し、異なる文化背景やコミュニティに適応できる薬剤師を育成したい。健康ケアシステムの進化に対応し、社会的影響力を高めることを目標とする。